

會報

第33号

平成3年11月

武蔵高等学校同窓会

体育 武蔵とバスケットボール

榎本日出夫（34期）

日立戸塚女子バスケットボール部コーチ

高校を卒業し約三十二年目位でしょうか？
それも武蔵といえは「勉強」関係の話と思われるなかで、体育関係に近い仕事をしている私に、何故？……と思ってもかけぬ原稿依頼にとまどいを感じています。

しかし、イエスをいってしまったのだからと思いつつも、武蔵のアウト・ローとしては書くことに大きな負担を感じています。

意を決して書き出すことにして、良く考えてみると、バスケット生活の思い出が私にはすべ

てです。従って私にとつての武蔵というのは、畑公に集約されてしまうのです。

こんな単純な学園生活ではないといろいろ想い起こすのですが、今やっている仕事、方向性、考え方、生きざま等、何故か、すべて畑公的で、影響力の大きさに参っています。

なにも、武蔵へバスケットをやりに行ったのではなく、もつとみのある学園生活、その後の方向を求めて入学したにもかかわらず、バスケット部が、お茶の水附属高校という女子チームと合同練習をしているのを、のぞき見をしたばかりに、邪な気持ちでこの道に入ってしまったのです。

その上、大学を卒業して、おきまりの仕事でのいきづまりの日々、悪魔か天使の声で「杉野をコーチしてみないか」の一言、又、その上「杉野では日本一にはなれないから……」「実業団でチームをみてみたら……」で日立戸塚入り。

そうはいっても、自分で決心して、この道を選んだからには、未知だといっても、だれにも

負けたくない、ならばこれ一本にしほって……とプロ宣言。ここ迄は、夢の中を一気に飛んできたようなもの。

好きだ、得意だと思っていたことを、それなりに仕事としてつきつめていくのは大変なんだと気がついた時には、もうこの世界にドブプリ

そんな仕事の中で、バスケットを通じて、畑公に教えられた多くのことが、数々のシーンの中で、役に立っていることは確かです。

それらのことが、「武蔵で受けた体育の教育と現在の仕事」というテーマにふさわしいかどうかわからないけれど、その中で、今でも印象に残っている出来事を中心に、今の仕事との関連を綴ってみたいと思う。

従って、練習、合宿という現象からは、はなれて話をできないのだが、この話は、合宿の中の出来事なのです。常に、合宿というのは、たくさんの話題と教訓を含んで、今の私には存在しているのですが、これもその中の一つです。

合宿に入ると、とりあえず、みんなで日程づくり、規則づくりをします。これは畑公が決めるのではなく、自分達で決定することになっている訳で、そこには、いいわけのできない責任が発生するしくみになっているのです。

これはその一部ですが、「練習場迄、走って往復しよう」という決めごとがありました。

走るコースは自分で選んで良く、少し遠いがバス等が走っていて、いつも安全なコース。最短距離だが畑のあぜ道コース等、いろいろありました。しかし、どこを通ろうが、必ず走っていくというのが決定事項でした。

ところがある日、練習が極端におそくなりしました。いつも練習は定時にはじまります。しかし、決めた時間には終わりません。ここが我々には不満でした。これには我々の努力不足も多あった事でしよう。その上に、畑公のレベルアップへの執念も見のがせません。

そんな訳で練習はおそくなるのですが、この日は特別で太陽はかくれ、おなかはずくで、や

つと練習も終り、それぞれが散りながら、帰途につくことになる訳で。

外は真暗で、だれも見えていないとなれば、最短距離を行こうという気持ちになるのはあたり前で、しかも光はなく、だから走るとキケンという理論で、歩く、しかし見つかったらヤバイから、寮の前でダッシュ、息をはずませて、「ただいま！」しかし畑公はバス通りを自転車にのって一部始終をみていたとなれば当然結果は——。畑公は寮の玄関で正座して待っていたのでした。

このあと、すぐ畑公の部屋に呼ばれ、「何故私がおこっているのかを、ミーティング迄、きちんと各自が答えられるようにしておけ」というおたっしでした。

「自分達で決めたこと、これは自分達で守れ」

「守らないのだったらはじめから決めるな！」

「もしこれが最低のモラルだったら、守れるように、みんなが助けてあげろ！」

高一の時の、にがい思い出です。その時の畑

公の顔が今でも目に浮かぶ程、私にとっては強烈な印象として残っています。

こんなささいな事を何故、と思っっている我々に、真剣な顔で、どうしてダメなのかを説く畑公。

今、自分がその立場にいます。日本一のチームを作るやり方には、いろいろな方法があると思いますが、私は、この畑公+榎本流でやってきました。その結果、日本一にも四回なりました。

そして、二十三年間戸塚を指導してきて、女の子を指導するのは難しく、手間のかかる仕事だと感じています。それは、決して自分達から意見を出し、決定し、それらをキチンと守って行動していかない人達が多いからです。

しかし、最長で六年間、共に生活し、練習をしていると、これらの意味を理解し、大切に感じ、実行してくれる様になります。

「自ら考え、自ら行動する」たしか武蔵の三大理想にあった言葉だと思いますが……。

これらが理解しえれば、強いチーム、良い人間ができるのはあたり前です。

クラブを卒業し、結婚をし、子供でも生まれれば、今どきの男性達よりも、物わがりの良い、そして自己主張のある女性に変わっていきます。

これこそ、私の受けた教育だと感じていますが、でも表現の方法がまちがっているのでしょうか？ これからの私の課題です。